

患者に適した剤形変更を提案することで アドヒアランス向上に寄与した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、薬剤開始時に服薬指導を行い、患者に適した剤形変更を提案することで、アドヒアランスの向上に寄与できたプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▶原疾患に対する治療目的で入院中の患児
以下の薬剤について、内服開始となった。

【入院処方（一部抜粋）】
Rp. ウルソ顆粒 5% 1回 100mg（1日2回）



Aさん

服薬指導時

今日からまたウルソというお薬が始まりますね。
以前服用していたときに気になることはありませんでしたか？

前に飲んだとき結構苦かったみたいで…

そうだったんですね。
苦みで飲みにくいようでしたら、同じ成分の錠剤もあります。これまでに別のお薬では錠剤も飲まれていますし、よろしければ医師に確認しておきましょうか？

それは助かります。お願いします。



Aさんの母親



薬剤師

医師にウルソデオキシコール酸錠への変更を提案し、錠剤へ変更となった。

錠剤に変更となりましたが、問題なく服用できていますか？

錠剤に変えたら苦みもないようで、問題なく飲めています。
ありがとうございました。



その後も服薬に問題なく、治療を継続することができた。
薬剤開始時に服薬指導を行い、患者に適した剤形変更を提案することで、アドヒアランスの向上に寄与できた。